

令和7年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験合格発表 分析コメント

(株) アイテック IT人材教育研究部 2025.12.25

10月12日(日)に行われた令和7年度秋期の情報処理技術者試験について、応用情報技術者ほか高度系5試験の合格発表がありました。IPAから発表された得点分布など統計データの分析結果をもとに、情報処理安全確保支援士試験の分析コメントをお知らせします。

■エンベデッドシステムスペシャリスト試験 (ES)

[令和7年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 統計情報]

| | |
|-----|--------|
| 応募者 | 1,696人 |
| 受験者 | 1,156人 |
| 合格者 | 177人 |
| 合格率 | 15.3% |

令和7年度秋期実施のエンベデッドシステムスペシャリスト試験の合格率は15.3%で、前回の16.9%と少し下がりました。前々回から午後I試験の出題数が2問(それ以前は3問)で解答数が1問(以前は2問)に減り、午後II試験は記述式から論述式に変わる大きな変更がありました。論述式試験に変わって3回目の試験ですが、対策のしづらい問題と感じた人が多かったと思われます。

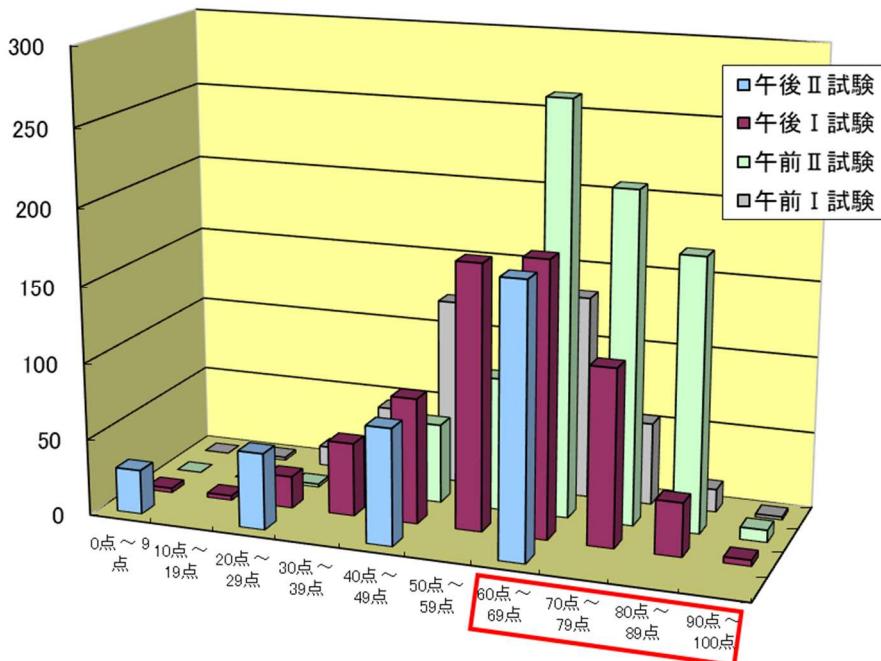
次に発表された得点分布の分析とグラフを示します。

(令和7年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 スコア分布)

| 得点 | 午前I試験 | 午前II試験 | 午後I試験 | 午後II試験 | 合格者 |
|----------|-------|--------|-------|--------|-------|
| 0点～9点 | 0 | 0 | 3 | D 29 | 177 |
| 10点～19点 | 2 | 0 | 3 | | |
| 20点～29点 | 13 | 2 | 21 | C 50 | |
| 30点～39点 | 45 | 10 | 48 | | |
| 40点～49点 | 122 | 52 | 82 | B 76 | |
| 50点～59点 | 129 | 87 | 173 | | |
| 60点～69点 | 133 | 269 | 179 | | |
| 70点～79点 | 54 | 216 | 115 | | |
| 80点～89点 | 15 | 178 | 35 | | |
| 90点～100点 | 2 | 8 | 4 | | |
| 計 | 515 | 822 | 663 | 332 | 177 |
| 対前試験比率 | | 159.6% | 80.7% | 50.1% | 53.3% |
| 午前I免除者概算 | 641 | 55.4% | | | |

| 合格者数 | 177 | 採点者数の割合 | 合格者数との差 |
|--------------|-----|---------|---------|
| 午前I 60点以上合計 | 204 | 39.6% | 27 |
| 午前II 60点以上合計 | 671 | 81.6% | 494 |
| 午後I 60点以上合計 | 333 | 50.2% | 156 |
| 午後II-A評価 | 177 | 53.3% | 0 |

令和7年度 エンベデッドシステムスペシャリスト試験 得点分布



午前 I 試験免除の人も増えてきましたが、得点分布を分析してみると、今回午前 I 試験の免除者は概算で 641 人（55.4%）おり、受験者の 6 割近くが午前 II からの受験となっています。この午前 I 試験で基準点 60 点以上取ることができた人は 204 人で受験者の 39.6% に当たり、前回の 73.5% から大幅に下がりました。

午前 II 試験で基準点以上の人には 671 人（受験者の 81.6%）で前回の 75.5% から増加しています。

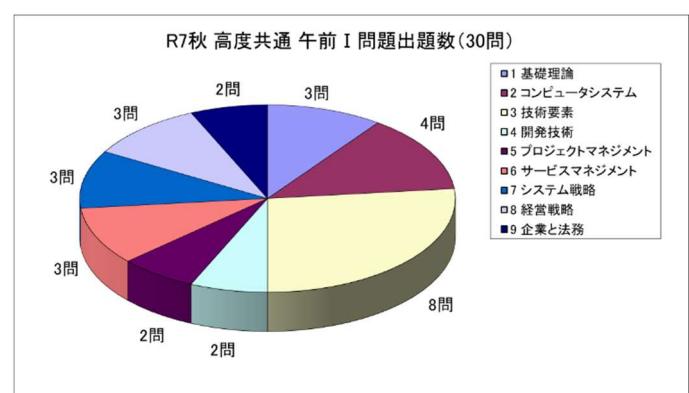
次に、午後 I で基準点（60 点）以上取れた人は 50.2% で、前回の 57.1% から減っています。また、論述式試験に変わった午後 II で合格点の A 評価だった人は 53.3% で、前回の 47.0% から増えています。午前 I と午後 I 試験で苦労した人が多かった試験といえます。

■令和 7 年度秋期 エンベデッドシステムスペシャリスト試験の出題内容について

[午前 I 試験（高度試験の共通知識問題）] 30 問出題／30 問解答、50 分

高度試験で共通して出される午前 I 試験の 30 問は、従来どおり、すべて応用情報技術者試験（AP）の午前試験 80 問の中から選ばれていて、テクノロジ系 17 問（57%）、マネジメント系 5 問（17%）、ストラテジ系 8 問（26%）という出題比率です。

午前 I 試験には免除制度がありますが、高度試験を受ける人の約 4 割が午前 I 試験から受験しています。今回の午前 I 試験で 60 点以上の得点で突破できた人は高度試験全体で 40.6% いましたが（前回は 44.6%），平均的には 5～6 割の突破率なので、今回と前回の試験が難しかったことを示しているといえます。出題範囲が広いため問題を難しく感じる人がかなり多く、最初の午前 I 試験でつまずかないよう、早めに試験対策の学習を始め、確実に知識を理解していく必要があります。

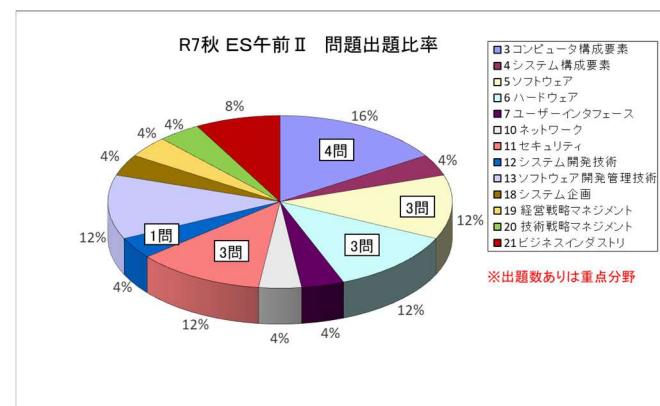


- ・今回の午前 I 試験は、約 6 割が過去問題でしたが、難しい考察問題が減って、文章問題が増え、前回より解きやすい試験だったといえます。
- ・重点分野のセキュリティの出題数は前回と同じ 4 問で、最も多い出題数です。
- ・新傾向問題は 7 問で前回の 8 問とほぼ同じでしたが、難しい内容のものは少なかったといえます。

(午前 II 試験 (専門知識問題)) 25 問出題／25 問解答, 40 分

前回の午前 II 試験から出題範囲にテクノロジ分野のユーザーインタフェースが加わりました。その前の試験で、ストラテジ分野のシステム企画、経営戦略マネジメント、技術戦略マネジメントが加わったので、以前よりかなり出題分野が増えています」。

今回、追加されたユーザーインタフェース分野で出題された問題は「ユーザエクスペリエンスの定義」という内容でした。過去問題は約 7 割ありましたが、エンベデッドシステムスペシャリスト試験の過去問は 9 問ありました（前回 8 問）。組込み特有のハードウェア、ソフトウェア、システム開発関連の問題は 5 問出題され（前回 7 問），新傾向問題は 6 問あり少し難しい内容でした。



(午後 I 試験) 2 問出題／1 問解答, 90 分

前々回の試験から出題数が 2 問、解答数が 1 問と少なくなりました。試験時間はそれ以前の 2 問解答時と同じ 90 分なので、解答の負荷が減ると期待されましたが、出題された問題分量が 10 ページ程度で設問の量も多く、問題を理解して解答を考える時間としては足りなかつた人が多かったと思われます。今回の試験問題も問題分量が多く（2 問とも 11 ページ），解答量も多いと感じられました。

出題された内容は、前回と同じ問 1 がハードウェア、問 2 がソフトウェアを主体とするものでした。

- ・問 1 次世代一人乗り電動車椅子（ハードウェア主体）普通 11 ページ
- ・問 2 人工衛星を用いた建設進捗状況監視システム（ソフトウェア主体）普通 11 ページ

(午後 II 試験) 3 問出題／1 問解答, 120 分

前々回から論述式の試験に変わり、出題数は 3 問になりました。問題はすべて、組込みシステム製品に関するという前提で、「製品企画におけるマーケティング戦略」，「流用設計」，「入出力インターフェースの開発」をテーマとした問題内容でした。

- ・問 1 新市場に対する組込みシステムの製品企画におけるマーケティング戦略（企画・要件定義）
- ・問 2 組込みシステム製品の流用設計について（設計・開発）
- ・問 3 組込みシステム製品における入出力インターフェースの開発について（保守・開発）

前回は、組込み製品の開発経験がないと記述が難しい問題内容でしたが、今回は組込みシステム開発の経験が少なくても解答できる内容で、全体的にやや易しくなったといえます。

■令和 8 年度のエンベデッドシステムスペシャリスト試験の対策について

次回令和 8 年度から、応用情報技術者と高度情報処理技術者試験が PC で受験する CBT (Computer Based Testing) になることが IPA から公表されました。従来の記述式の設問も CBT で実施されることになっています。なお、エンベデッドシステムスペシャリストの午前 I と II の試験は A-1 と A-2 試験に、午後 I と午後 II 試験は B-1, B-2 試験となり、名称は変わりますが出題内容は変わらないとされています。

まず、科目 A-1 試験（旧午前 I 試験）対策で気を付ける必要があることとして、出題範囲が非常

に広いため、計画立ててなるべく早く試験対策を開始する必要があることです。過去の統計情報を分析すると、60点以上取れた人は4割から5割台が多く、問題が難しいときには3割台のときもありました。また、過去に出題された高度の旧午前Ⅱ試験の難しい問題も出題されることがあるので、過去に出題された応用情報技術者試験の問題を演習として活用して、日頃から知識を増やしていき、余裕をもって7割以上正解できるように理解度を上げてください。学習教材としては、これまで出題された出題内容のポイント事項と必須問題を重点的に解説したアイテック刊行の「2026-2027 高度科目 A-1・応用情報 科目 A 試験対策書」で効率よく学習を進めてください。

科目 A-2 試験（旧午前Ⅱ試験）で専門知識として、組込みシステムに関するハードウェア、ソフトウェア、システム開発の問題が出題されますが、科目 B 試験で出題される事例問題の内容を理解するための必須知識といえます。応用情報技術者試験で出題される組込みシステム関連の知識を基礎として、さらに詳細な内容まで理解する必要があります。

科目 B-1, B-2 試験（旧午後Ⅰ、午後Ⅱ試験）の対策としては、各問題の出題テーマに関連する専門知識を確実に理解し、問題事例に対して学んだ知識が適用できるようになるまで、しっかり演習を行う必要があります。なお、専門知識の中でも特に重要な内容について解説し、科目 B 試験問題の解法ポイントを論文試験含めて実践的に解説した参考書として、アイテック刊行の「エンベデッドシステムスペシャリスト「専門知識+午後問題」の重点対策」がありますので、科目 B 試験対策の教材として、ぜひ活用してください。また、科目 B-2 の論文試験対策を重点的に行いたい場合は、実際の論文記述例を多く収録した「エンベデッドシステムスペシャリスト 合格論文の書き方・事例集」がありますので、この教材もぜひ活用してください。